

花の宝庫 裏筑波



【山行日】 4月14日(日) 【天気】 曇り時々晴れ

【交通】 マイカー 野木町公民館 午前7:00出発

【費用】 1名あたり 交通費 700 円 (12名参加+車2台) 距離:片道約 42km

【参加者】 CL H SL K

A、U、K、H、H、H、H、M、Y、Y 計 12 名

【コースタイム】

湯袋峠発 8:40 …秘密… 女体山 12:10 … 林道 P14:30 着 行動時間 約 6 時間

【ひとこと】 私は春の筑波山を『プチ角田山』と呼びます。筑波山のカタクリを思い浮かべますと、御幸ヶ原、ユースホステル跡、筑波高原キャンプ場が有名ですが、実は山の懐に入ったところに、カタクリの群生地が在ります。春の裏筑波は、花の宝庫です。

折角、裏筑波の懐に入るのだから読図でも…と欲張ってしまい、今回予定していた新たな景勝地まで辿り着けず予定コースの 2/3 で終了となりました。来年は『筑波山を中腹から登り、中腹に戻る』楽々登山&ちょっと冒険的な『ランクC+』、この2つを企画したいと思いました。

今回の読図は基本とは違った番外編。山では『現在地確認と整置』、この2つがとても重要で常にどの辺りを歩いているかが分かれば、道迷いなどのアクシデントを防ぐ事が出来ますのですが…、教えるとなるとなかなか難しいものだと思います。 H



帰路で立ち寄った五郎助山(筑西市)にて撮影 ※五郎助山…子供達が自然を体験できる平地林

【裏筑波・感想文】

秘密の花園歩き

今回は裏筑波の北東面を歩くコースである。

湯袋峠より 500m北西に位置するT字路より女体山へ向かって歩き始めた。この登山道はいつものにぎやかな筑波山とは違い、静かな雰囲気ですれを私達を迎え入れてくれた。

芽吹き始めた木々の淡い色、隣の山に目をやると、蓬色の山に桜が点々と咲いて、山全体が軽くふわーっとしていた。

少し山へ入って行くと、そこにはどこまでも続くカタクリの群落があった。

道の両側に満開に咲いていた。ちょうど見頃で最初は感嘆していたが、見慣れて麻痺してしまうほどだった。

二輪草の群落、菊咲いちげ、しきみも咲いていて、筑波山は花の山であった。

今回は読図もあり、まずスタート地点で整地をし、筑波山頂がどの方角にあるかの話から始まった。あとは要所要所での説明があった。

- ① 地図を見てどんな地形を歩くか感じ取っていないと、ついリボンにつられて間違った道を歩いてしまうケース
- ② 地図では目の前に道があるのに実際は崖になっている場合はどうするか？
⇒右側、左側、に分かれて行き登り口を探す。
- ③ お喋りをしていると道標や道へ入る所を見落とす。よく周囲を見ながら歩く。
その他にも沢山教えて頂き有意義な山行でした。

又 HCL の筑波山への探求心と知識の深さには敬服いたしました。

そして筑波山の素晴らしさを教えて頂き、奥深い山であることを感じました。

記 Y

白い花 二輪草の群落のある、腰かけるに丁度手ごろな岩がひな壇状に散在している明るい開けた坂道がランチタイムの場所となった。

木々は芽吹き、おおるりがさえずり、山桜も微笑んだ。

去りがたきに決別を告げ、どんと出くわした分岐は、女体山に通じる主道であった。屏風岩の下方、岩くぐりのある場所がそこである。

人多き女体山頂へは脇目も振らず、北方の下キャンプ場へ通じる道から、楽しいかなまたまたカタクリの可憐な花園へと踏み入った。

もう足元に咲き誇る気高き紫の花弁を踏みはしないかと気遣うほどの豊かさである。野生のカタクリは某カタクリ園のそれとは、伸びやかさ、色つや、可憐さに於いて自ずと違いが判った。秘密の花園はあったのである。 記 H

